

寄りから指導を受けるなど世代間交流が図られている。しかし、学校施設の管理と不審者への対応は、福祉施設への来訪に制限ができないことから今後の課題であった。

環境産業委員会

◆視察月日 7月19日～21日
◆視察市 長野県長野市
岐阜県多治見市

◆視察項目
中心市街地活性化事業について
環境基本計画全般について

中心市街地活性化事業

長野市では2000年に市の中心部に位置する「ダイエー」と「そごう」が撤退した。市と商工会議所等は中心街の衰退に歯止めをかけるため、TMO（タウン・マネジメント組織）「㈱まちづくり長野」を設立して既存施設の再活用に着手し、2003年、市が「ダイエー長野店」の土地・建物を取得し、中心市街地活性化の施設として「もんぜんプラ座」を開設した。1階は、中心市街地の不足業種で住民要望が高い、食料品販売施設として、TMO直轄の「とまと食品館」、2階は「子ども広場」になっており、保護者の交流の場としての利用、子育てに関する相談等も実施しているとのことであった。3階は市民活動の場として会議室、NPO共同オフィス、国際交流コーナー、市民ギャラリーなど多目的に利用されていた。4階から8階までの未利用スペースが今後の大きな課題とのことであった。



長野市役所前で

また、長野市の観光の目玉である善光寺の門前町に残る、使用されていない空き店舗・土蔵・空き家等を活用し、新しい魅力スポット「ぱていお大門」をオープン。多くの若者が訪れているとのことだった。

環境基本計画全般について

多治見市では平成12年に基本計画を策定し、①土岐川の流れを大きくむまちを目指して自然環境の保全、②循環型社会をつくり維持するまちを目指して物質の循環を推進、③やさしきとらるおいのあるまちを目指して生活環境を保全、④地球にやさしいまちを目指して地球環境の保全、の4つを柱に取り組んでいるとのことであったが、今年1月に隣接する笠原町との合併により、来年度に基本計画の見直しをするため、1年間かけて環境調査を実施中とのことであった。

建設委員会

◆視察月日 9月27日～29日
◆視察市 長野県松本市
長野県飯田市

◆視察項目
生活排水処理事業の取り組み
市街地の市道の有効利用

生活排水処理事業の取り組み

松本市は、1市4村が平成17年4月に合併し、人口22万7千人となった。合併前の旧市村の生活排水処理事業は公共下水道事業、農業集落排水事業、合併浄化槽整備事業である。合併浄化槽整備事業においては、旧4市村が個人設置型、旧1村が市町村設置型で取り組まれている。各事業の区域を指定し旧市村の異なった制度のまま合併後も事業が推進されている。しかしながら、個人負担額に旧市村で格差が生じているため、当面現行どおりとして、平成22年度を目処に旧松本市の制度に統一するよう調整することとしている。

新松本市の生活排水処理事業全体の整備率は98.3%で、公共下水道事業は95%、農業集落排水事業は0.6%、合併浄化槽整備事業は2.7%である。これらの事業では都市計画税等の賦課区域もあるため個人負担額や使用料等の賦課の統一調整は難題とのことであった。

市街地の市道の有効利用

飯田市は、昭和の大合併以後も次々に隣接町村と合併し、平成17年10月には2村を編入合併、現在の人口は10万7千人である。昭和22年の大火



飯田市でスライド説明を受ける

による復興の道路建設で幅員30mが計画され、その道路中央分離帯を活用して飯田市立東飯田中学校全校生徒1500名の手により、りんごの木40本を植栽した。やがて15の市民団体が組織した「りんご並木まちづくりフォーラム」が結成され、平成8年から地方特定道路整備事業等を利用して再整備が始まり、公園型歩車共存型道路に生まれ変わった。つまり、市道ではあるが、公園と一体となつている道を、人も車も通る。ただし、道は曲がり、植物が道に張り出しているため、車よりも人に優しい構造となつている。

飯田市のシンボルとなつたりんご並木は、市街地に緑を形成し、防火帯ともなり、都市型曲水路を街路に設け市民の癒しの空間をつくつている。また、りんごの老木更新の植栽や手入れから収穫まで生徒の手によつて行われていることは、市民がふる里を想う心となつて次代へ伝わっていくものと感じた。